



発行・京都障害者スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

「楽しんでいただいていますか？」
「スタッフのつどい」・「つどいのスタッフ」

スポーツのつどい専門部長 辻井 武

府立体育館改修工事のため昨年十月から本年五月まで長期の休みでした。参加者の方々はたいへん長くお待ちをいたしました。体育館お休みの間、参加者の皆様には不便と寂しい思いをさせてしまいました。スタッフもみなさんにお会いできず寂しい思いをしておりました。

六月のつどいから、早速府立体育館へ来ていただいている方「楽しんでいただいていますか？」
「まだ行ってへんわ。」
「へ？始まってたん？ほなそろそろ行こか。」という方「お待ちしてま〜す。」

【スタッフのつどい】
スタッフはつどい再開に向けて、スタッフのつどい「昨年十月から本年五月まで毎月開催しました。卓球バレー・シンクロナン・城陽の

つどいスタッフ・フライングディスク・ボッチャ・水族館と食学会・シンクロナン・見学など様々なスポーツの話聞き、実技を体験して、スタッフ同士のコミュニケーションを図りました。つどいで大切にしていることの確認もしました。

【つどいで大切にしていること(3つの柱)】
はじめの一步

参加者にとつて「障害を理解してくれ人がある。スポーツだけでなく、人とのふれあい、出合いがある。私にもできることがある。」という発見の場。自由にできる。好きな種目を好きなだけできる。自分のペースでできる。安心して参加できる。(府立体育館と同じ場所・定期開催)

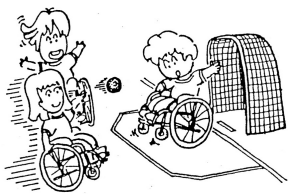
スタッフにとつて：参加者の笑顔に出会える。スタッフ同士仲間に出会える。スポーツが苦手なスタッフでもいろいろな場で輝くことができ。スタッフの持ち味を生かすことができる。スタッフも参加者と一緒になつて楽しめる。

一緒にやるうよ！楽しんでうよ！

参加者も家族・友人もヘルパーさんもスタッフも体育館職員も一緒にスポーツを楽しもう。私教える人、私教なくてもう人という関係ではなく。共にスポーツを楽しむところがいいところである。新しいスタッフもベテランの参加者に教えてもらうこともしばしばある。どのように工夫したら、一緒にもつと楽しめるのかを一緒に見つける場である。もつと、輪を広げよう！つどいをまだまだ知らない人がたくさんいる。もつと宣伝しよう。知つていても来にくい人に来やすい場にする工夫。振興会の他の専門部・他団体(指導者協議会)との連携を工夫する。「つどい」と「他の場(大会・教室・サークルなど)」をつなぐ場である。

【つどいのスタッフ】
府立体育館の障害者スポーツのつどいではボランティア

「裏面へ」
イアのことを「スタッフ」と呼んでいます。「障害者スポーツのつどいを支えて参加者と一緒に楽しむ人。」という意味でそう呼んでいます。昭和四十七年のつどいが始まった時から現在までのつどいのスタッフには、子どもから高齢者まで年齢の幅も広く、学生・会社員・施設指導員・教員・柔道整復師・主婦・退職後の方など様々な方がスタッフをしています。障害者スポーツ振興会のスタッフの中には、スポーツのつどい専門部員さん、卓球専門部・卓球バレー専門部・フライングディスク専門部・車いすハンドボール専門部などの専門部員さん。スポーツ振興会のスタッフではないけれど障害者スポーツのつどいを支えようという気持ちでつどいに続けて参加していただいているスタッフなどがおられます。障害のあるスタッフもおられます。様々な方がスタッフをしています。強みでもあり、誇りでもあります。



行事予定	9月	22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	来月のつどいは
		29(日)	第33回全京都障害者総合スポーツ大会アーチェリー大会	南丹市日吉総合運動広場	
	10月	6(日)	全京都障害者フライングディスク大会	丹波自然運動公園	10 / 13
		8(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		12~14	第13回全国障害者スポーツ大会	東京都	
	12(土)	車いすハンドボール審判講習会①	京都市障害者スポーツセンター	第2日曜日	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2013年7月28日に一部更新)					

京都市
障害者スポーツセンター
開館25周年記念(1)
資料

「障害者スポーツのあり方について」昭和60年答申に於いて「昭60年答申」を通じて市民にはスポーツを通じて健康で豊かな人生を送る権利があり、障害者も同様の権利を有する。しかし、障害者はその障害ゆえに格別スポーツ活動を必要とするに及ばず、現状は極めて不十分な状況にある。

この状況を克服するため早急に下記のような施策を実施する必要がある。

それは障害者の特権として突出して実施されるものではなく、障害を持たない者のスポーツ条件の向上と共に進められるべきである。ただし、障害者がスポーツ活動を行うためには、障害を配慮した一定の条件整備が行われない限り、「同年齢の市民と同等」(障害者の権利宣言)のスポーツ条件とはならないとの認識を前提とする必要がある。

また、障害者スポーツの推進に当たっては、障害者の発達の差を十分踏まえながら、すべての障害者がより高い人間の発達を、途切れることなく追求する方向で検討が必要である。

なわち、初歩的なスポーツから競技的なスポーツまで、共通の発達課題の中に位置づけられるべきである。

1 障害者スポーツ推進組織の整備

京都市障害者スポーツ推進委員会の設置

障害者スポーツ推進のため、基本方針の検討機関として、障害者代表、福祉関係者、市民代表等による全市レベルの推進委員会を設置する。

2 スポーツ施設の整備

京都市障害者スポーツセンターの建設

推進拠点として市の中心部に近い場所に最重度の障害者にも利用可能なスポーツセンターを早期に建設する。障害者の優先利用が前提であることは言うまでもないが、障害を持つ者と持たない者との統合(インテグレーション)を薦める見地からも、障害者の専用にするべきではなく、一般市民との共用とすべきである。

身近な地域のスポーツの整備も並行して進める。小学校の開放を検討する必要がある。

昭和63年3月 京都市障害者スポーツセンター第一期工事竣工(温水プール)

(表面より)

毎月のつどいは、つどいが終わって後片付けとまとめの会をしたあと「また来月もよろしく」という言葉で終わります。その時来月の予定がわかっておれば、「ちよつと来月都合悪いので休みます。」という方もおられますし、「つどいまでのひと月の間にお休みを伝えてくださる方、当日お休みの方など様々おられます。当日のスタッフの人数は、参加者と同じで蓋を開けてみないとわかりません。

最近、「都合がつかずお休みです。」というスタッフが増えています。つどいを支えてくださるスタッフがたくさんおられたら、毎月のスタッフの数にも余裕ができて、楽しいつどいを作ることにもゆとりができます。ぜひ皆さんと一緒に支え合えるスタッフをやってみませんか? スタッフを募集しています。

「障害者スポーツのつどい」のスタッフは毎月募集しております。「いつでもどつどい! やってみようと思つた時に来てください。」今後そのスタンスに変わりはありません。今回「新しい募集方法にチャレンジしてみよう。」ということでは

月十日に「障害者スポーツのつどい」ボランティア体験会」を企画しました。

「障害者スポーツのつどい」ボランティア体験会

日時 11月10日(日)
12:30~
16:30

場所 京都府立体育館
(京都市北区大将軍鷹司町)
電話:075
(462)9191
Eメール:
taiikukan@pref.kyoto.lg.jp

目的 「障害者スポーツのつどい」のボランティアを体験する。

対象 (障害のある方々と一緒にスポーツを楽しむという方)

「障害のある方と関わってみたいけれど、どう関わればいいかわからない。」という方。ご安心ください。スポーツと一緒にすることとで自然に関われ、関わる楽しみが味わえます。「障害のある方とスポーツを通じて関わりたい方」(障害のある方のスポーツ場面を支援したい方)体験会参加をお待ちしています。

「ボランティアになるかどうか迷っている方」先ず体験してからボランティアになるかどうかは考えられてはいかがですか? 年齢・障害のあるなしは問いません。

(現在のボランティアは子どもから高齢者まで年齢様々・障害のあるボランティアも活躍中です。)

体験会は、いつものつどいの中で行いますので、参加人数は「つどい」の雰囲気壊さないで体験をしていただける30名程度を考えています。応募者多数の場合は、12月以降の第2日曜日ご都合のいい月に参加していただくなど相談させていただきます。ご了承ください。

応募方法と締切
往復はがき、またはメールで府立体育館にお申し込みください。
締切は10月25日(金)
(当日消印有効)

当日の主な流れ
12:30~
つどいについての説明
13:20~
当日ボランティア全員の打ち合わせ
13:30~
ボランティア体験
16:00~
感想話し・情報聞く。